

本年度の学校評価

本年度の重点目標	地域・保護者から信頼され、生徒が学びたいと思う学校づくり		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
保護者との連携 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と連携し、よりよい学校づくりを心がける。 適切なタイミングで文書を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを用いて、効果的に情報を発信する。 メール配信をより一層活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事のありかたを検討し、参加しやすい内容・形式にする。 一斉メールへの登録を促す。
学習指導 (教務部) (各教科会)	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に沿った授業への改善をすすめ、生徒が授業に意欲的に取り組む態度を育成するとともに、達成感を得られるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を効果的に活用し、主体的で深い学びにつなげる。 本校の授業の問題点を見つけ、その改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の効果的な活用方法を教科会や教科主任会で共有する。 中学校の授業における生徒の活動を参考に、高等学校での授業の方法・形態を工夫する。
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が基本的な生活習慣を身につける。 生徒が正しい身だしなみを身につける いじめ防止について保健部(教育相談係)との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 期待される人間像をあらゆる場面で方法を工夫して伝え続ける。 問題行動の予防的指導を徹底する。 職員間、職員と保護者間、職員と地域間の連絡を密にした体制で臨む。 指導・支援チームからの共通理解と意識啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣とは、あいさつをすること、時間を守ること、傾聴すること、整理・整頓・清掃をすることなどである。 遅刻数減少に向けて教員・生徒の意識を高める。遅刻指数の目標は2.0以下である。 身だしなみとは、「いつでも面接に臨めるように、服装・態度・言葉使いなどを整えること、またその心がけである。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> 職員、生徒の信頼関係に基づき指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の進路志望状況を職員集団で共有する。 卒業生の進路を参考にして、効果的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査等のデータを共有する。 進路検討会等を使って個々の生徒に対する指導方針がぶれないようにする。 生徒の多様な進路希望を叶えられるように柔軟に対応する。
保健 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく授業に臨める学習環境にする。 教育相談を充実させる。 生活習慣や環境を整え、落ち着いた生活を送ることができるように支援する。 生に関する正しい知識を身につけ、適切な意思決定や行動選択ができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常清掃について、美化委員を通じてゴミの分別を呼びかけ、清掃・美化活動について啓蒙を図る。 スクールカウンセラーによるカウンセリングが適切に行われ、相談した生徒が円滑に学校生活を送るのに資する。 保健室入室時の記録票、生徒からの聞き取りにより、生活習慣の課題を把握し、改善に向けて指導する。 性に関するアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。関係教職員、講師と事前打ち合わせを行い、生徒の実態に合わせた保健講話を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室・トイレ・外庭などが清潔に保たれているようにする。 教育相談が必要な生徒について、情報を共有し、適切に対処できるようにする。 保健委員を中心として、生徒の手による活動を活発にする。 5W1Hに沿って聞き取り、生徒自身が課題に気づき、改善点について考えさせることができたか。 アンケートから実態をとらえ、問題点を明確化することができたか。 生徒の実態に合った講話をすることができたか。
生徒会 (生徒会部)	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事(生徒会行事)や部活動に、生徒たちが主体となって参加して取り組むことができる環境を整え、明るく活力ある学校運営につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部だけではなく、生徒一人ひとりが活動の活性化を目指し、学校全体で諸行事、部活動を展開していく意識を持たせることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に活動できるよう職員が支援し、安心して行事に参加できるようにする。 感染症や熱中症対策、ケガの防止には細心の注意を払う。
総合学科推進 (総合学科推進部)	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に実施する「産業社会と人間」について、学年と連携しながら円滑な運営に努める。 令和6年度以降の教育活動について、その内容・実施体制を整備するとともに、職員への研修を推進し共通理解を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」で協力いただく外部機関と丁寧なやり取りを進め、連携体制を構築する。 来年度から新たに開講する科目の年間指導計画、教材を作成し、確実に実施できるよう準備する。 今年度中に複数回現職研修やワークショップを行い、ビジョンを共有できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り早い段階で審議を進め、イレギュラーにも柔軟に対応できるようにする。 教職員全員がビジョンを共有して進めていくことが肝要であるため、日ごろから連携を密にし、協力できる体制づくりに努める。

<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導：「主体的・対話的で深い学び」の実現とともに、他者との協働を通じて課題に挑戦し、解決を目指す。 ● 進路指導：自身の「これまで」「今」「これから」について向き合い、自己の強みを伸ばしていけるキャリア教育を実践する。 ● 教育環境の整備：教職員の適性や能力を生かすような業務の適正化を図るとともに、在校時間等の記録を把握して心身の健康を保つ。
--------------------------------	--

前年度の学校評価

[自己評価結果等]

前年度の重点目標	地域・保護者から信頼され、生徒が学びたいと思う学校づくり		
項目(担当))	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保護者との連携 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の方々と緊密な連携をはかり、よりよい学校づくりを心がける。 ● 適切なタイミングで文書を発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページを用いて、効果的に情報を発信する。 ● 安全・安心メールによるメール配信をより一層活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症拡大のため、予定変更が多々あったが、ホームページ・メール配信をも活用して、概ね遺漏ない連絡ができた。 ● 多くのPTA行事が中止となった。保護者の負担を考慮してPTA行事の精選をはかりたい。
学習指導 (教務部・各教科会)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に沿った授業への改善をすすめ、生徒が授業に意欲的に取り組む態度を育成するとともに達成感を得られるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● AL室を活用する。 AL室の使用方法を共有して、授業に生かす。 ● 本校の授業の問題点を見つけ、その改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒一人ひとりにタブレット端末が配備され、AL室を活用するよりも各HRでの活用が促進された。このことにより、各教室の設備充実と、AL室の差別化を図る必要が生じた。 ● 授業や諸活動でのタブレット端末活用が拡充することによって生じる問題点を分析・対応することが必要となった。また、効果的な活用方法をさらに推進することも課題となった。
生徒指導 (生徒指導部・各学年会)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が基本的な生活習慣を身につける。 ● 生徒が正しい身だしなみを身につける。 ● いじめ防止について保健部(教育相談係)との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 期待される人間像をあらゆる場面で方法を工夫して伝え続ける。 ● 問題行動の予防的指導を徹底する。 ● 職員間、職員と保護者間、職員と地域間の連絡を密にした体制で臨む。 ● 指導・支援チームからの共通理解と意識啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「交通安全教室」では安全意識の向上を目指した内容で生徒の取組もたいへんよいと感じた。 ● 「命の大切さを考える教室」では、他者の心情を自分のことのように捉えて、これからの生活に生かしていこうという姿勢が見られた。外部の方の講演を傾聴することで、より広い視野を身に着けることは今後も続けていきたい。 ● 一年生の遅刻数はかなり少なかった。目標数を、明確に、最適なタイミングで、継続的に示し続けた結果といえる。目標設定の大切さを改めて感じた。次年度にぜひ生かしたい。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員、生徒の信頼関係に基づき指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の生徒の進路志望状況を職員集団で共有する。 ● 卒業生の進路を参考にして、効果的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導が必要な生徒に対しては、該当学年以外の先生方にも協力していただくなど、学校全体で取り組むことができた。 ● 生徒に示す進路の選択肢として、「やりたいこと」だけでなく、就職希望者の「正規雇用のメリット」なども考えさせていきたい。

<p>保健 (保健部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちよく授業に臨める学習環境にする。 教育相談を充実させる。 生徒が主体的に感染症対策を実行できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常清掃について、美化委員を通じてゴミの分別を呼びかけ、清掃・美化活動について啓蒙を図る。 スクールカウンセラーによるカウンセリングが適切に行われ、相談した生徒が円滑に学校生活を送るのに資する。 校内放送や保健だよりの作成などで新型コロナウイルス感染拡大予防対策に対する意識改革を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別の意識が大多数の生徒に根付いてきている。廊下や教室などにゴミが落ちていることがあるので、ゴミに気付いたらゴミ箱に捨てる、ゴミを落とさないといった意識を持たせたい。 多様な悩みを抱える生徒に対して、スクールカウンセラーによるカウンセリングを適切に行うことができた。本人だけでなく、教員や保護者との面談が必要なケースも多く、そちらも充実させていきたい。あわせて、いじめ防止のためのアンケートも継続して実施していく。 保健委員を中心として、生徒の手による活動を活発にする。
<p>生徒会 (生徒会部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事(生徒会行事)に生徒たちが主体となって参加して取り組むことができる環境を整え、明るく活力ある学校運営につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 起点となる生徒会執行部の活動を活性化し、各委員会やHRとの連携を図り、学校全体で諸行事を展開していく意識を持たせることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大予防対策を改善しながら、生徒がより安心して行事に参加できるにはどうしたらよいかを考えながら、活気ある行事運営を目指すことができた。 各行事において、生徒たちが主体的に準備や計画、作戦を考え始めた結果、それぞれのクオリティが高くなり、達成感と充実感を持つようになった。 委員会やHR委員もうまく活用していきたい。
<p>再編推進 (再編推進部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学校再編に向けて、校内での審議を進めると同時に、学校外の連携先を模索し折衝を行う。 再編に向けて、教職員全体の気運や知識を高め、一丸となって再編に向けて連携していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職・各分掌・各学年の教員と連携を密にし、情報を共有することで、スムーズに審議を進められるよう努める。また、自治体や企業、大学等の外部連携先に関しても、再編の構想を丁寧に伝え、積極的に協力してもらえるよう努める。 今年度中に複数回現職研修やワークショップを行い、ビジョンを共有できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 左に挙げた部署等と連携を深め、校名やカリキュラムの策定、その他詳細な事項について決定することができた。外部の機関に関しては、主に令和5年度1年生で実施する「産業社会と人間」で講話等を依頼する機関を中心に議論を重ね、おおむね協力体制を構築することができた。令和6年度以降の実施科目については今後も議論を重ね準備を進めていきたい。 現職研修は年5回実施し、方向性やマインドを共有することができた。来年度は研修以外の場面でも再編の状況を共有するよう努め、教職員全体の更なる連携を目指したい。
<p>総合評価</p>	<p>本年度もコロナ禍の中、各分掌で工夫を凝らし、臨機応変な対応で業務に取り組むことができた。また、学校再編に関係して新たな取り組みが増えたが、多くの教職員が各業務を前向きに取り組んで推進できたことが、成果を上げた大きな要因である。</p> <p>一方で、教職員の働き方についてはICTの導入が進む中、新しい取り組みに対してはエラーが一定割合発生するため、その修正が業務の負担となるケースが見られた。今後エラーが修正され、さらにICT推進化が加速し、業務の軽減につながることを期待したい。</p>		